

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

日常

山鹿市立山鹿中学校

三年 丸山 ゆい

私はとても学校が大好きだ。

毎日友達と会えて、何気ない話をして笑い合って。クラスのみんなと過ごしやすい教室の中で楽しい授業を受け、学ぶことができて。放課後は自分の大好きな吹奏楽という部活に打ち込み、一生懸命仲間と高め合うことができて。毎日が楽しく新しい発見がたくさんあり、私はとても学校が大好きだ。

しかしこの日常生活を送るためには多くの税金が使われていて、その力はとても大きいものだということを知った。

教科書代は国の税金で払われ、義務教育までの九年間は無償となっている。授業で教科書が無償になった歴史を学び、新学期最初の授業で教科書が配られたときにも毎年先生から言っていたため、それを理解し感謝して使っていたつもりだった。学校の机も椅子も同様、大切に使っていた。けれど先日行われた租税教室で自分はまだ考えが甘かったことに反省した。

教育費の一人あたりの負担額は小学生で約九十四万円、中学生で約百八万円、高校生で約百十二万円となる。これらのお金が税金によって支えられているのだ。そして全てを合計すると約千二百八万円にもなるそうだ。

他にも身の回りに目を向けてみると、毎日当たり前のように友達と会えるのも税金で道路や信号などが綺麗に整えられ、安全にしてくださっているおかげである。学習しやすい、過ごしやすい空間にするためについている電気やエアコンも、好きな部活に熱中することができるのも税金があるからだということがわかる。また地域を綺麗に保つためにごみの収集処理が行われ、私たちの住む山鹿市では十八歳までの間は医療費が無償化となっている。これらも税金が使われているからだ。この日本にいる顔も見たことのない知らない人が、誰かの幸せのために税金で助けているのだ。

税金は国民が健康で豊かな生活を送るための共通の費用、いわゆる会費である。誰もが住みやすい町づくりにするために使われている。税金があるから誰でも学校へ行くことができ、税金により教科書代が無償のため貧富の差関係なく平等に勉強することができる。そのおかげでたくさんの人と関わることができ、自分自身も大きく成長し、大切な友達ができた。

たくさんの税金が使われているということは、その分税金を納めている人もたくさんいるということだ。その方々へもつと感謝の気持ちを持ち、私は今のこの時間を大切に生きていくことを考えた。